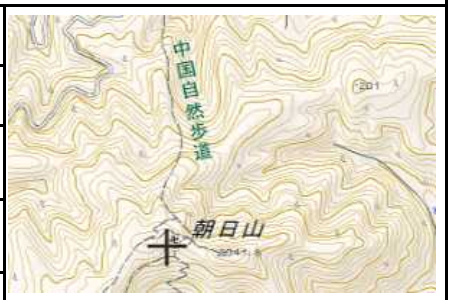
歴史・文化サイトカード

通しNo.	1-A-7	更新日	2025/2/20
サイト名	『出雲国風土記』にある神名火山(かんなびやま)と縁結び縁切りの社(やしろ)～朝日山(あさひやま)、佐太神社(さだ)		

基本情報	区分	☑有形　□無形　☑その他
	所在地	朝日山:松江市鹿島町古浦 佐太神社:松江市鹿島町佐陀宮内73
	指定別	「佐太神社　正中殿/南殿/北殿」 国指定　(指定番号02128)
	種別	重要文化財
	指定／登録年月日	1982(昭和57)年2月16日
	管理団体／モニタリング	佐太神社々務所 佐太神社崇敬会
	周辺施設／アクセス	☑トイレ　□売店　□飲食店　☑駐車場(60台程度) ／JR松江駅から車で約20分・バスで約 25 分「佐太神社前」下車すぐ
	留意点	



サイトの解説	歴史・文化	朝日山は、『出雲国風土記』に記される茶臼山、仏経山、大船山に並ぶ4つの神名火山の1つとされる。標高は341.8メートルである。頂上には金宝山(きんぽうざん)朝日寺があり、その東西に東の峰、西の峰があり、それぞれに展望台となっている。東の峰には1等三角点本点と天測点がある。1等三角点は県内に13あり、うち本点はここと三瓶山と隠岐に2山ある。宍道湖や松江市街地、恵曇港などを眺望でき、天気に恵まれれば隠岐の島も見ることができる。山の最高点である西の峰(344メートル)からは、宍道湖や斐川平野、隠岐の島が遠望できる。 佐太神社は、『出雲国風土記』に「カンナビヤマの麓に座す」佐太大神社(さだおおかみのやしろ)或いは佐太御子社(さだみこのやしろ)、延喜式(えんぎしき)に佐陁大社(九条家本)と記される古社である。佐太大神は出雲国風土記に記される四大神の一つである。また当社は杵築(きづき＝出雲大社)、熊野とともに出雲国三大社の一つとして「佐陀大社」とされた神社である。旧暦十月には八百万の神々が集まり、様々な神事が執り行われることから「神在の社」(かみありのやしろ)とも称されて広く信仰を集めた。
	地形・地質、生物・生態等	標高341.8mの朝日山は流紋岩の貫入岩でできている。朝日山の一帯は、島根半島の最下位層である古浦層が分布しており、この古浦層をドーム状に貫いた岩脈群が朝日山を形成する。山の南の高低差が大きい参道はこのような地質を反映している。山の北には古浦へ続く遊歩道が整備されている。 佐太神社は、島根半島の東西に連なる山地を分断して流れる佐陀川に隣接して建造されている。風土記時代には佐太川とよばれ、南に向かって流れ、流下に佐太水海(さだのみずうみ)が広がっていた。この湖は宍道湖とつながる入り江で、江戸時代から「潟の内」ともよばれていた。弥生時代からこの一帯は人々の主要な生活の場所であり、江戸時代には松江城下の水害対策のため1785(天明5)年から1787(天明7)年にかけてこの佐太川の河川改修が行われ、日本海(恵曇湾)とつなぐ人工河川として佐陀川がつくられた。神社の手水鉢は、境内にあった身澄池(みすみがいけ)の開削にあたり、この工事を主導した清原太兵衛が寄進したとされる。佐陀川は、その後地域の新田開発や日本海との水運事業で大きな経済効果をもたらした。 また、佐太神社の社叢林は、原生的な森林が残り、地域の景観を代表する森林として、特定植物群落「佐太神社のスダジイ林」に指定されている。

写真・図等	
 朝日山から望む松江市街・大山	 佐太神社

参考文献	